

ウェルビーイングな大学プロジェクト

ウェルビーイング向上のためのパイロット的支援について

男女共同参画推進室は、令和6年度学長裁量経費「ウェルビーイング研究環境実現イニシアティブ」に採択されました。

その一環として、令和7年1月11日(土)に開催された「令和6年度高知大学教職員運動会」を支援しました。本運動会は人事課の主催により実施され、3つのキャンパスから95名の教職員が参加し、大盛況のうちに終了しました。

また、参加者の皆さまには、運動会の前後に職場のウェルビーイングに関連する質問を含むアンケートへのご協力をお願いしました。高知大学では、コロナ禍を経て、部署を超えたコミュニケーションの機会が減少しているとの声が聞かれています。そのため、今回の運動会では、職員に対する「コミュニケーションの重要性」の認識を啓発するだけでなく、「一緒に体を動かして協力する」という具体的な行動が認識に与える効果に注目しました。



さて、運動会の前後でどのような変化が見られるでしょうか(効果が見られない可能性もありますが…笑)。分析結果については、改めてお知らせしたいと思います。(廣瀬)

高知大学女性研究者比率の推移



日本政府は人口減少局面にある状況から、研究者コミュニティの持続可能性を確保するとともに、多様な視点や優れた発想を取り入れ科学技術イノベーションを活性化していくために、女性研究者の活躍促進を重視しています。しかし日本の女性研究者の割合は、英国(38.3%)や米国(33.4%)、フランス(29.9%)など諸外国と比較すると、依然としてかなり低い数値です(18.3%) (文部科学省科学技術・学術政策局人事政策課「令和6年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業概要」より)。

そこで女性研究者のリーダー層の育成や、出産・育児後の研究現場への円滑な復帰を支援する環境整備の重要性が強調されており、文部科学省は、女性が活躍できる環境の実現に向けた取組みを推進し、理工系分野の女子生徒の進学促進を支援する考えです。

高知大学男女共同参画推進室では、より女性研究者が研究と生活の両立できる環境の整備等に向けて様々な制度を実施中しています。また女性研究者だけでなく、子育て中の男性研究者にもご利用いただける制度もあります。詳細はp.7をご参照ください。



男女共同参画推進室 しあわせぶんたん

News Letter

高知大学
Kochi University

vol.15
March 2025

「マネル」と「マチズモ」

先日、女性のジェンダーギャップを議論するシンポジウムに参加しました。その中で、恥ずかしながら初めて耳にした言葉が「マネル(Manel)」です。英語で識者や登壇者、討論会を指す「パネル(Panel)」に「男性(Male)」を重ねた造語で、男性ばかりで構成されるカンファレンスや会議を批判の意味を込めて表しているそうです。

この言葉はいつから使われるようになったのでしょうか。私は以前、地域の人口ビジョンについて協議する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」会議を中心に、自治体の様々な会議を主催してきました。その中には、ほとんどが男性委員のケースや、同年代ばかりで議論するような場が散見されました。余りにバランスが取れていない場合に、委員構成を変更するようお願いをしてきましたが、その時抱いていた違和感を「マネル」と表現できると理解しました。

翻って現在の本学の会議の光景を思い浮かべると、やはり現実「マネル」と言わざるを得ません。男性比率が高く、男性優位な社会と言われれば全く否定できません。一刻も早く解消しなければならない大きな課題です。そう言えば他の男女共同参画シンポジウムで、この「男性優位主義」を「マチズモ」と表現することも知りました。

意識を変えるべきは「自分自身」であることを痛感しつつ、「マネル」と「マチズモ」を常に意識した大学運営を心掛けてまいりたいと存じます。



高知大学 受田 浩之 学長

第15回中国四国男女共同参画シンポジウムを開催しました!

第15回 中国四国男女共同参画シンポジウム
オンライン開催

基調講演 「実証経済学から見るジェンダー格差」

11/29 13:15 - 15:00 (明曜) 13:00

講師 牧野百恵 (東京大学 経済学教授)

主催 中国・四国地区国立大学10校が主催するシンポジウム

協賛 高知大学男女共同参画推進室

申込方法
QRコード又はURLから申し込みください。
URL: <https://www.office.com/09090909>

申込期間 2024年11月27日(水)まで

11月29日(金)「第15回中国四国男女共同参画シンポジウム」をオンラインで開催しました。中国・四国地区国立大学10校が主催するシンポジウムで、今年度は高知大学が担当しました。

基調講演にはアジア経済研究所開発研究センター主任研究員の牧野百恵さんをお招きし、「実証経済学から見るジェンダー格差」をテーマにお話をいただきました。牧野先生からはジェンダー格差の測り方について説明いただくとともに、現象や課題を読み解く方法の一つとして、実証ミクロ経済学のアプローチについて紹介いただきました。特に、現象を読み解くためには相関関係と因果関係を見極める必要があることを、因果推論を導くためのラボ実験や自然実験の事例を紹介しながら説明いただきました。その後、広島大学副学長の石田洋子先生、愛媛大学副学長の鈴木静先生を交えて意見交換が行われ、男女共同参画という複合的現象への解決アプローチには、法律、政治、経済学、教育学、そして多くの自然科学の視点で協働していく必要があることが確認できました。

牧野百恵著
ジェンダー格差
実証経済学は何を語るか

理由がここに
日本停滞の理由がある

著書「ジェンダー格差～実証経済学は何を語るか～」は、第46回「サントリー学芸賞[政治・経済部門]」を受賞されました。



男女共同参画推進室 しあわせぶんたん Vol.15 発行日/令和7年3月

国立大学法人 高知大学 地域協働学部棟3階
〒780-8520 高知市曙町二丁目5番1号

TEL: 088-888-8022 FAX: 088-888-8023 E-mail: sankaku@kochi-u.ac.jp

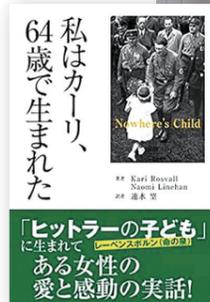


ウェルビーイングな大学プロジェクト

「カフェ座談会：著者と語らう素敵な時間」

4月26日(金)朝倉キャンパス図書館1階リフレッシュコーナーで「カフェ座談会：著者と語らう素敵な時間」が開催されました。

語り手はカーリ・ローズヴァルさん(「私はカーリ、64歳で生まれた」著者でアイルランド在住の79歳)です。ナチスの「人種増殖計画」で生まれた半生から、差別や虐めが如何に人間の尊厳を傷つけることなのかについてやさしい口調で時に力強く語りました。在京スウェーデン大使館の速水望さんの通訳と、在ストックホルム日本大使館で広報担当職員として働いている息子さんの補足も加わり、とても分かりやすく気持ちが伝わってきました。座談会ではコーヒーや紅茶を飲みながら、カーリさんとの質疑応答が行われました。参加者は18名でした。カーリさん、参加者の皆さん、有難うございました。



ウェルビーイング講演会①

「ウェルビーイングを考える：UNRWA・ガザ地区の現状報告を踏まえて」



6月18日(火)、令和6年度ウェルビーイング講演会「ウェルビーイングを考える：UNRWA・ガザ地区の現状報告を踏まえて」をオンラインで開催しました。

講師には清田明宏さんをお招きしました。清田さんは高知医科大学(現：高知大学医学部)を卒業され、2010年より「国連パレスチナ難民救済事業機関(ウナルワ：United Nations Relief and Works Agency for Palestine Refugees in the Near East)の保健局長として3000名以上の医療スタッフをまとめています。講演会は人文社会科学部の専門科目「越境社会論」の一コマとして企画され、清田先生には学生からの質問に沿って、ガザで起きていることについて映像を使いながら説明していただきました。「私たちにできることは何か」という学生の質問に対して、清田先生からは「まずガザや世界で起きていることを知って欲しい。目の前の命を助けることと同時に、長期的な視点での支援が必要になる」と返答がありました。

この講演会は私たちがガザについて知り、ウェルビーイングを考える貴重な機会となりました。Zoom参加者は167名でした。

ウェルビーイング講演会②

「大学生のスタディライフバランスとウェルビーイングを考える」

12月24日(火)、朝倉キャンパスにて「WLB & Well-beingセミナー」を開催しました。

講師に片岡聡子氏(高知健康科学大学 健康科学部准教授)をお招きし、「大学生のスタディライフバランスとウェルビーイングを考える」をテーマにご講演いただきました。職場でのワークライフバランスについてはよく聞くようになりましたが、学生のスタディライフバランスはまだあまり聞きません。

しかし、最近の学生はとても忙しくスケジュール管理に追われているようにも見えます。今回は、作業療法士としての実践、教育研究、大学生のスタディライフバランスについて、片岡先生の研究とご経験を交えてお話しいただきました。

参加した学生は頷きながら片岡先生の話に耳を傾けていました。学生教職員を中心に159名が参加しました。



片岡 聡子 先生
(高知健康科学大学 健康科学部准教授)

令和6年度 ロールモデル講演会

ロールモデル講演会①

「将来はアフリカで現地の人々と毎日歌って踊り、時々服作りをしながら生き生きと暮らすことが夢」

6月3日(月)、ロールモデル講演会「将来はアフリカで現地の人々と毎日歌って踊り、時々服作りをしながら生き生きと暮らすことが夢」を開催しました。

講師の山本さおりさんは、高知大学地域協働学部を卒業後、アフリカの生地で作成をしようとして服飾専門学校に入学。その後、アフリカの生地ですーツやドレスをつくるオーダーメイドの仕立屋に。参加者から「アフリカ行きを両親にどのように説得したか」と質問を受けると「やりたいことは声に出して



講師 山本 さおり さん
(高知大学地域協働学部 卒業)

伝え続ける」。外国語に対する不安はどの質問には「同じ人間なので通じるという気持ち」「まず会話してみて、あとで本で学ぶ」。続いて、様々な不安について質問があると、「朝起きて、一分一秒先が読めないワクワク感が勝つ」。山本さんの明るく、そして「(自分が)選んだことを正解にする覚悟」に、多くの参加者がそのお話に引き込まれました。当日の参加者は124名でした。



ロールモデル講演会②

「マレーシアで学んだ—怒らない、焦らない、走らない—」

7月8日(月)、マレーシアと日本の架け橋となる仕事をされている丸山洋子さんを講師に招き、ロールモデル講演会「マレーシアで学んだ—怒らない、焦らない、走らない—」を開催しました。

19歳の時に40日間の一人旅に出た丸山さん。その時に触れた国々の中でも多言語が飛び交う複合社会のマレーシアに魅力を感じました。丸山さんはJICA青年海外協力隊に応募、特技を活かした「製菓・製パン」指導の隊員としてマレーシアの学校に派遣されました。帰国後も、マレーシアと関わる仕事がしたいと、マレーシア語の他、英語の勉強に打ち込みました。参加者からは「丸山さんのチャン



講師 丸山 洋子 さん

スを掴むためのアンテナと行動力がすごい」「交渉力がすごい」とコメントがありました。丸山さんはチャンスは必ず来るし、来ているので、一歩踏み出して掴み取ってくださいと話しました。大学生、教職員合わせて115名が参加しました。



令和6年度 共通教育科目 「男女共同参画社会を考える」

男女共同参画推進室では、学生の方々にも男女共同参画について考えてもらうために毎年集中授業を開講しています。学内の様々な学部の先生方（家族社会学、社会学、幸福研究、文化人類学、経済学、等）など多様な視点からの講義だけではなく、女性や男性といった性別に問われずに「自分らしく生きる」というテーマで、様々な分野の方にもご講義いただきました。令和6年度は、人文社会科学部、理工学部、農林海洋科学部、教育学部から約70名が受講しました。

日程	講義	担当講師
9/9(月)	2限 ガイダンス「男女共同参画社会とは何か」	宮地歌織先生(男女共同参画推進室)
	3限 「家庭から見た男女共同参画」	森田美佐先生(教育学部)
	4限 「地域における男女共同参画」	佐藤洋子先生(地域協働学部)
9/10(火)	2限 キャリアセミナー	児美川孝一郎先生(法政大学キャリアデザイン学部)
	3限 ロールモデル講演会	地域のロールモデルとして、子育てや育休を取得した方2名(横田恭氏、岩神美紀氏)
9/11(水)	2限 「ウェルビーイングと男女共同参画について」	廣瀬淳一先生(男女共同参画推進室)
	3・4限 「リプロダクティブ・ヘルスから考える男女共同参画」	市川義一先生(静岡赤十字病院・産婦人科) 宮地歌織先生(男女共同参画推進室)
9/12(木)	2限 「育児の視点からの男女共同参画」	岩佐和幸先生(人文社会科学部)
	3限 「SOGIの多様性について」	レインボー高知 宮田真氏
	4限 「デートDV:知っておきたいこと!」	こうち男女共同参画センター ソーレ 上村朋美氏
9/14(土)	3・4・5限 「過労死に関する講演会」	長井偉訓先生(愛媛大学名誉教授) 高橋幸美氏(過労死ご遺族)

キャリアセミナー

9月10日(火)令和6年度「キャリア形成セミナー」を開催しました。このセミナーは、毎年こうち男女共同参画センター「ソーレ」の支援を受けて実施しているものです。

「キャリア1」では、法政大学キャリアデザイン学部教授の児美川孝一郎先生をお招きしました。児美川先生からは「生涯にわたるキャリアデザインの視点から卒業後の進路を考える」について講演いただき、①「シューカツ」はわずか数年の出来事、「キャリア」は人生100年時代を生きること、②「シューカツ」は現在の社会の価値観を前提にしている、「キャリア」は自分の芯や判断や行動の軸が大切、③「シューカツ」は競わされる、「キャリア」は自分の個性や価値観を大事にする、とのお話がありました。

つづく「キャリア2」では、地域のロールモデル2名にご登壇いただき、それぞれのキャリアについて報告していただきました。株式会社技研製作所の横田恭さんからは男性の育児休業を取得率100%の取組と自身の経験についてお話しいただきました。農業分野のWEBデザインで起業経験のある岩神美紀さんからは自分の興味関心や強みから組み立てるキャリアについてその経験からお話しいただきました。

「キャリア3」では受講生同士で意見の共有が行われました。学生たちは同年代のキャリアプランに驚いたり、同意したりしながら意見交換しました。



児美川 孝一郎 先生
法政大学キャリア
デザイン学部教授

リプロダクティブ・ヘルスから考える男女共同参画

SDGsの目標5に「ジェンダーの平等」が掲げられていますが、その中にリプロダクティブ・ヘルス/ライツ(SRHR)も含まれています。日本では「性と生殖に関する健康と権利」と訳されますが、日本ではまだ様々な面で遅れている分野です。

9月11日(水)の講義では、静岡県で子宮頸がんに関する活動をされている市川義一先生(静岡赤十字病院・産婦人科)をお招きし、SRHSについて学びました。トピックの一つは子宮頸がんでした。これはHPVウイルスの感染でおきますが、予防や検診などで防ぐことが可能な病気です。男性にも関係するウイルスです。若い世代にとって正しい情報やサービスについてより知ってもらう活動についてご紹介いただきました。

また授業の後半はグループに分かれて、自分やパートナー、家族の健康を守るために、どのようなメッセージが可能なのかというスライド作成を行いました。各グループからの発表やディスカッションも活発に行われました。アンケートでは、これまで子宮頸がんやワクチン、HPVウイルスについて知らなかったという声や、グループワークで自分の考えを表現できてよかったという声もありました。



SOGIの多様性について

9月12日(木)3限はレインボー高知の宮田真さんをお招きして、SOGIの多様性についての講義でした(詳しくは、P10を参照ください)。

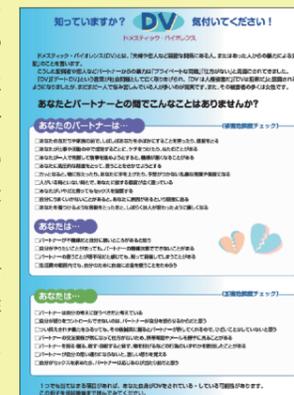
デートDV講座

9月12日(木)4限は、こうち男女共同参画センター「ソーレ」の上村朋美氏をお迎えして、デートDVについて学びました。

用語の説明や様々な事例から、男性も女性も加害者にも被害者になりうること、また質問紙などで各自がこれまでの振り返ることや、性的同意については紅茶の動画の視聴から考えてみるなど、様々な方法で学習しました。

授業実施後の学生のアンケートからは、「デートDVという言葉を知りました」あるいは「言葉は聞いたことがあったけど、詳しく知ることができました」「自分も被害者や加害者になる可能性があると感じました」「過去のお付き合いの中で、デートDVをしていたかもしれません」など多様な感想が寄せられました。

ソーレではDVに関して冊子や相談窓口があります。詳しくはソーレのHPでご確認ください。



<https://www.sole-kochi.or.jp>

過労死に関する講演会

9月14日(土)、集中講義の最終日に電通過労死事件のご遺族である高橋幸美さんと、愛媛大学名誉教授の長井先生をお迎えして、過労死防止のセミナーを行いました。

先日のキャリアの講義の際には主体的な選択をしていくことが大切という話をしてきました。高橋さんのお話からは、長時間労働やハラスメントが常態化した職場で疲労困憊してくると、そもそも正常な選択ができなくなってくる様子が伝わってきました。

主体的に考え選択するための前提条件にはウェルビーイング(精神的に、身体的に、社会的に良い状態)が必要だと改めて思いました。



講師 長井 偉訓 先生
(愛媛大学名誉教授)



講師 高橋 幸美 さん

生理用品無償提供ディスペンサーについて

生理用品無償提供ディスペンサーの設置について

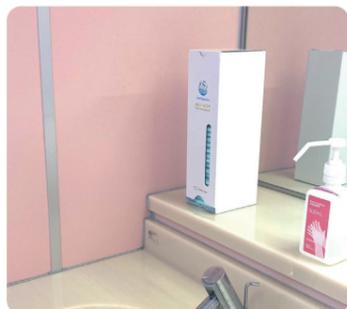
2023年、2024年にかけて、高知大学・地域協働学部の佐藤洋子先生と学生達によって、「生理の貧困」への課題の関心から、学内およびソレ(こうち男女共同参画センター)にて無料で生理用ナプキンのディスペンサーを設置する活動が行われました。地域協働学部も含め、学生会館(生協)などの女子トイレ、多目的トイレにディスペンサーを数カ月設置し、その後アンケートを実施しました。

この活動を通じて、学生達から学内に常設してほしいという要望が寄せられたことを受け、学生支援課や男女共同参画推進室など関係部局で検討を重ねた結果、2025年度に学生会館にて試験的に実施することが決定しました。

高知大学では「ウェルビーイング」を掲げており、本活動で学生の皆さんにとってより過ごしやすい環境になればと思います。また生理(月経)など性に関することはタブー視される傾向にありましたが、リプロダクティブ・ヘルス(性と生殖の健康)の観点からも、月経について、男女ともに知識を持ち、心身ともに健やかに大学生生活を送ることができるよう支援いたします。



生理用品ディスペンサー



設置の様子



地域協働学部ソレ実習班の学生さん



講師 大崎 優 先生
次世代地域創造センター
(総合科学系地域協働教育学部門)

略歴

高知大学人文学部社会経済学科卒業、高知大学大学院総合人間自然科学研究科人文社会科学専攻修了、高知大学大学院総合人間自然科学研究科黒潮圏総合科学専攻単位取得満期退学。修士(経済学)。

平成26年2月より高知大学国際・地域連携センター(現、次世代地域創造センター)にて地域コーディネーターとして大学と自治体・企業・地域の連携を推進する業務を行う。

＼育児休業を取得された教員のリアルな声を伺いました！／

育児休業は家族で過ごす貴重な時間

2023年11月16日に第1子が誕生し、11月21日より1か月間の「出生時育児休業」を取得しました。その際の経験についてお伝えします。

「出生時育児休業」を取得した理由は、生活リズムが大きく変わることでの夫婦の負担を考えたことと、生まれた直後の子どもと一緒に過ごすことができる時間は貴重な経験になると思ったからです。育児休業の取得も検討していましたが、1か月で生活リズムが安定したことと、裁量労働による働き方の自由度の高さから、働きつつ子育てを行うことにしました。

私は学外の方とのやり取りや学内の教員との調整が主な業務ですので、休業を取ることに調整は比較的スムーズでした。また、休業中でも学外の方を中心に多くのご連絡がありましたが、事情をお伝えすることでご理解をいただきました。お祝いの言葉をいただくことも多く、たくさんの方に支えられていることを実感しました。

休業期間中には子どもと密に過ごすことができ、多くの経験ができました。生まれたばかりの子どもは自分の想像を超える活動をしますので、一つ一つの体験がとても新鮮でした。また、妻と過ごす時間がとても増えることも休業を取る意義の一つと感じました。

子どもは1歳を迎えました。毎日、新しい経験が続いていますが、新生児時代を一緒に過ごせたことは、かけがえのない宝物になっています。

支援事業



ライフイベントからの復職支援制度

過去2年度以内にライフイベント(妊娠、出産、育児、介護)のため休業又は産前・産後休暇、もしくはその両方により、3カ月以上やむを得ず研究活動を中断した女性研究者の研究を支援します。

国際学術論文投稿支援制度

女性研究者の研究力向上、および女性研究リーダー育成のために、外国語論文を執筆する女性研究者に投稿費または校閲費の補助を行う制度です。

2024年度 支援金額 5万円 採択者 1名

研究支援制度

研究支援員が研究補助を担うことで、ライフイベント中の研究者が計画的に研究の遂行と生活時間の確保ができるように支援する制度です。

2024年度 利用者6名

高知大学女性研究者奨励賞

本学で優れた研究を展開している女性研究者を表彰することにより、女性の研究意欲及び挑戦力を高め、未来を牽引する研究の促進を図るとともに、女性研究者の活躍の場を広げ、女性研究者にとって魅力的な大学とすることを目的としています。

力仕事サポーター

ライフイベント中(育児・介護等)の大学教員・研究員(特任教員・特任研究員を含む)が、実験等で使用する重い機械等の運搬・操作の補助、書籍運搬等が必要な際に、短時間の「力仕事サポーター」が随時支援を行います。

支援事業の詳細は、男女共同参画推進室のウェブまたは学内グループウェアをご覧ください。



休日入試等の一時託児

本学の教職員を対象に、休日の入試やオープンキャンパス等の実施日に一時託児を設置しています。詳しくは教職員グループウェアの募集案内をご確認ください。

年度	試験・イベント名	実施日	キャンパス	利用教員数	託児数
令和6(2024)年度	自己推薦	7/6(土)	物部	1	1
	大学院入試 教職高度化専攻	10/26(土)	朝倉	1	1
	学校推薦型選抜 I	11/16(土)	朝倉	1	1
		11/17(日)	朝倉	2	2
	大学入学共通テスト	1/18(土)	朝倉	3	4
1/19(日)		朝倉	1	1	

令和7年1月末時点



育児介護休業制度のご案内 仕事とプライベートのハーモニー

本学の職員が活用できる制度についてわかりやすくまとめています。

制度を上手に活用して安心して育児・介護と仕事を両立してください。

ウェブからもダウンロード可能です。

印刷物をご希望の場合は、男女共同参画推進室までご連絡ください。



<https://www.kochi-u.ac.jp/sankaku/station/pdf/wlb-harmony2022.pdf>



学内でのイベント紹介

男女共同参画推進室では、学生や教職員の皆さんが、安全で安心して勉強や仕事、研究に励むことができるように、様々な活動を行っています。



男女共同参画推進室の愛称は「しあわせぶたん」です。自分も幸せにみんなも幸せに暮らす社会づくりを目指しています。ランチタイムなどを利用して行うイベント「buntan café」を実施しています。ぜひカフェに来るような気分でお越しください。



【第1回 buntan café】

9月25日(水)のお昼休み時間帯(12時10分～13時00分)朝倉キャンパスの「おうちクラブ」にて、子育てについての情報交換会を行いました。朝倉キャンパスでの入試時の教職員の託児会場である「おうちクラブ」で行い、託児の場所などを知ってもらうために企画しました。学外の情報として、一時託児、病児保育(高知市内)、ファミリーサポート、「仕事とプライベートのハーモニー」冊子(&クリアファイル)の配布を行いました。



【第2回 buntan café】

11月20日(水)の11時30分～13時00分に、物部キャンパスの厚生会館1階談話室にて「子育てに関する情報交換及び相談会」を実施しました。本イベントは、入試やオープンキャンパスの際の託児について知ってもらうこと(託児の際に利用する和室の下見)、また推進室の活動の紹介やそのほかについて相談を受け付けました。子育てをされている教員の方からは病児保育や家事育児についてのご相談がありました。推進室の方では、すぐにすべての課題を解決できないこともありますが、他機関への情報収集をするなど、より子育て情報などをお伝えしていきたいと考えています。



またオンラインでも buntan café を実施しています。女性研究者を対象とし、6月25日(火)の昼休み時に実施しました(岡豊キャンパスより4名、物部キャンパスより1名、朝倉キャンパスから2名の参加)。まずは推進室から女性研究者支援の事業についての説明を行い、その後、各研究者の自己紹介、ならびに情報交換を行いました。

男女共同参画推進室では、「支援ステーション」を設け、仕事(研究)と育児や介護との両立支援についての相談を受け付けています。

「研究と育児を両立させたい」「育児・介護情報が欲しい」という方や、研究者のキャリア形成についてなどのご相談がありましたら、推進室までご連絡ください。(相談者のプライバシーには十分配慮いたします。)

【場所】高知大学(朝倉キャンパス)地域協働学部棟3階・男女共同参画推進室
※詳しくは男女共同参画支援ステーションのウェブをご覧ください。

<https://www.kochi-u.ac.jp/sankaku/station/index.html>



女性に対する暴力をなくす運動週間

毎年11月12日～25日は、内閣府が定める「女性に対する暴力をなくす運動(パープルリボン)」週間であり、今年は高知大学全体での取組として展示ならびにイベントを開催しました。

今年初の試みとして、朝倉キャンパス図書館にて図書や資料の展示を行いました。クリスマスツリーと紫のリボンを用意し、パープルリボン運動に賛同する方にリボンを飾ってもらいました(のべ142名)。地域協働学部棟ではジェンダーについて学んでいる学生や、教職員が協力し、展示を行いました。



11月22日(金)には第3回buntan caféとして、朝倉キャンパス図書館にて、学生や教職員、地域の方に向けて、リアライズYOKOHAMAの橋本明子氏を講師に招き、心と体のセルフディフェンス(著書「セルフディフェンス」)について学びました。男女がともに被害者にも加害者にもならないためのコミュニケーションについて学ぶ機会となりました。



11月23日(土)には学内の施設にて、リアライズYOKOHAMAの橋本明子氏によるセルフディフェンスのWen-Doのワークショップを実施しました。Wen-Doとは、1972年にカナダのトロントで開発された、女性のためのセルフディフェンス(自己防衛)プログラムです。学生、教職員が、実際の体術とともに、人間関係のあり方も含めて、未然に暴力から身を護る方法も学習しました。大きな声を出すこと、相手を威嚇して逃げることなど、比較的容易にできる方法も多く、明るく楽しく学ぶことができました。参加者からは、過去に男性からのいやな経験があったのでWen-Doを知ることができて良かった、楽しみながら役に立つ情報を学べた、定期的に開催してほしい、などの声がありました。



SOGIへの取り組み

【高知大学におけるSOGIの基本方針について】

高知大学では多様な性的指向や性自認への理解を深めるために、令和4年に基本方針を定めました。SOGIについて幅広く知ってもらうために、大学での授業や医学部附属病院での研修などを実施しています。

SOGIとは、どの性別を好きになるか／ならないかを表す「性的指向(Sexual Orientation)」、自分の性別をどう認識しているかを表す「性自認(Gender Identity)」の頭文字を取った言葉です。

令和4年1月27日制定

【基本理念】

高知大学は、「地域から世界へ 世界から地域へ」を標語に、人権を尊重し、国籍、性別、年齢及び障害の有無等による差別や偏見のない大学として、地域社会・国際社会の発展に寄与すべく取り組んでいます。

この観点から、本学では、多様な性的指向や性自認=SOGI (Sexual Orientation and Gender Identity)への理解を深め、本学の学生・教職員等構成員のSOGIに関することがらに配慮するとともに、個人の意思・選択を尊重し、安全安心に学修・就労できる環境づくりを目指します。

【基本方針】

1. SOGIの多様性に関する理解を促進します。
2. SOGIを理由とする差別や偏見、ハラスメントを禁止します。
3. SOGIに関する個人情報の保護に努めます。
4. SOGIに関連する学修や就労上の合理的配慮を図ります

高知大学医学部附属病院では、多様な性の在り方を持つ方々が安心して受診や治療を行うことができるSOGI支援チームの活動実施中!



性の多様性について考えたり、SOGI支援のためのアライ(仲間)研修の様子(ニュースレター3号)※左記QRコードからニュースレターがご覧になれます。



より詳しく医学部附属病院SOGI支援チームのご活動を知りたい方は、ウェブをご覧ください。

【高知大学(朝倉キャンパス)でのSOGIに関する講演】

男女共同参画推進室が実施している集中授業(「男女共同参画社会を考える」)にて、9月12日(木)にNPOLイボー高知・代表の宮田真さんにお話をいただきました。授業では、SOGI(Sexual Orientation Gender Identity)やLGBT(Lesbian Gay Bisexual Transgender)などの用語について丁寧に説明頂き、性的マイノリティの方々の抱える生きづらさなどの現状、カミングアウトされたときの対応の仕方なども教えて頂きました。

互いの性の多様性を認め、性的マイノリティ当事者の子ども達も安心して暮らせる高知県になってほしいということで、宮田さんは小学校や中学校でのご講演活動も多く実施されています。詳しくはレインボー高知のウェブをご覧ください。



こうち男女共同参画センター(ソレ)にも相談窓口があります。



医学部附属病院の相談窓口のご案内

【仕事と病気の両立のために】

高知大学医学部附属病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として指定をされており、病院の患者ではなくても、「がん」および「難病」に関する相談窓口があります。

【「がん」との両立のために】

がん患者さんご本人、ご家族、支援に携わっている介護や福祉の担当者の方など、どなたでも相談することが出来ます。匿名での相談も可能です。詳細はウェブをご覧ください。

<https://www.kochi-u.ac.jp/kms/hsptl/gan/approach/consultation/index.html>



ひとりで悩まず、まずはご相談ください。

専属のスタッフが、一緒に考えるお手伝いをします。

高知大学医学部附属病院
がん相談支援センター
外来診療棟2階
脳神経外科外来横
088-880-2179



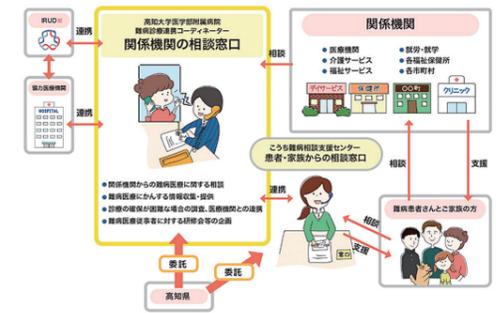
相談は無料で
匿名相談も可能

【「難病」との両立のために】

難病に関する法律の改正に伴い、従来は56疾患が対象であった医療費助成は、現在300を超える疾患が対象となっています。国は、こうした多様な難病疾患にきちんと専門的知識を持って医療・介護・福祉の専門職の皆さんが支援に取り組めるよう、拠点病院を設け、そこに難病診療連携コーディネーターを配置し、医学的な知識や支援に必要な情報を提供できる体制を構築しています。

難病の方やそのご家族の方の相談窓口がありますので、詳細は下記ウェブをご参照の上、高知大学医学部附属病院・難病診療連携コーディネーターにご相談ください。

https://www.kochi-u.ac.jp/kms/chiki/k_cooperation/nanbyoshinryo.html



男女共同参画支援ステーションのご案内



両立コンシェルジュデスク

両立コンシェルジュデスクは、高知大学の育児・介護等と仕事の両立相談窓口です(男女共同参画推進室内)。仕事との両立のために悩んでいることや困っていることがあるとき、育児情報や介護情報が欲しいときにご相談ください。岡豊キャンパスや物部キャンパスへの出張相談にも対応します。お気軽にご相談ください。詳しくは男女共同参画推進室のウェブをご覧ください。

<https://www.kochi-u.ac.jp/sankaku/data/concierge.html>

